たから べ

自律
協力
勤勉

学校便り　第８号
令和７年１２月２４日

〒899-4102　曽於市財部町北俣８１４番地
曽 於 市 立 財 部 中 学 校
電話(0986)72-1102　FAX(0986)28-5155

「今日の一針明日の十針」

松永 裕幸

もうすぐ冬休み！！クリスマスにお正月と楽しみなことが多い時期ですね！ただ、この冬休みの期間だからこそ、やっておかなければならないこともあるはずです。楽しいことがあるからこそ、出来る事を出来る時に、しっかりとやっておきましょう。

「今日の一針明日の十針」

これは、ほころびを今日縫えば一針で済むところを先延ばしした為に明日は十針縫わねばならなくなる意から、即応すれば苦労せぬものを遅らせた為に余計な負担を負う事、という意味です。このようなことは、分かってはいても、やってしまいがちなことですね。このようなことについて少し考えてみましょう。PCN 症候群というのがあるそうです。要するに、判断すべき時、勝負すべき時に何もしないで、何でもかんでも先のばしにしてしまうことですが、この習癖に染まると実にやっかいです。というのも、いけないこととわかっていても、完治も回復もなかなか困難な底なし性もあるからです。PCN 症の初期には、うつむき加減になり、その上、何事も面倒くさくなるという症状が出ます。現代は猛烈に変化が加速化していますし、加速化するだけが良いわけではありませんが、どんな人にも、どうしてもやらなければならないことは必ずあるわけで、当然、追い込まれることになります。物事は追い込まれるとろくなことはありません。まさに、読んで字の如く、愚図愚図しているうちに、愚かな図しか描けなくなる、そういう結果になるわけです。しかも、この PCN 症候群、非生産的であることは指摘されなくても想像できますが、悠々と生活できるようで、結局はストレスを増幅させることにつながるということは、往々に忘れられがちです。「追いつめられてイライラする」、これが第二段階の症状、時にはキレたりするので要注意です。さて、こういう先のばしにする人間のタイプは次の６つだと言われています。いわゆる、完璧主義者、夢想家、心配性の人、反抗的な人、危機好きな人、何でも抱え込む人。六つも挙げれば、どんな人だって少しはいずれかの傾向はあるもので、裏返して考えれば、誰でも発症することはあるということになります。また、命に関わることではないだけに、軽く受け止められる危険性も生じます。ただし、いずれのタイプでも共通点が一つあり、これがなかなかの曲者なのです。一言で言えば、「でも・…」という責任転嫁の感情が強いということ。この「でも……」という責任転嫁の感情は、人間の自然で本能的なエネルギーの流れさえもストップさせてしまうのです。しかも、その「でも……」という責任転嫁の感情は伝染性さえもあるので、予防に努めることが必要になるのです。

さあ、この冬休みが、楽しかった！という感想だけで終わることがないように、自分自身のスキルアップにつながる冬休みにしていきましょう！！

平和学習から観劇まで　充実した修学旅行

１１月２５日(火)～２７日(木)の２泊３日で２年生は福岡・長崎の修学旅行でした。長崎は平和ガイドの皆さんと２時間かけて長崎平和公園を中心とする街の中の戦争遺跡を巡りました。これまで半年かけて平和について学習してきたことを実地で学ぶ大変貴重な機会になりました。福岡では博多座にて SPY×FAMILY のミュージカルを鑑賞しました。普段経験できない迫力ある音楽と演技に感動したひと時でした。他にも、ヤクルト工場見学や太宰府天満宮の参拝など充実した行程で思い出と学びが詰まった２泊３日になりました。

ハンセン病に関する講話～新名主　聡さん～

１２月１３日(土)に元ＭＢＣ放送局のディレクターを長年務められた新名主聡(しんみょうず　さとし)さんをお招きし、ハンセン病に関する講話をしていただきました。講話は新名主さんが作成した番組を元にされました。番組で登場した堅山勲さんが体験した、ハンセン病患者とその家族が受けた偏見や差別について新名主さんが丁寧にお話してくださいました。講話の最後に、堅山さんから財部中学校の皆さんにメッセージを預かっていると紹介されました。「人々の、偏った考え、間違った考えは人間の幸せを奪ってしまうことがあります。大切なことは、‘物事を正しい眼で見ること’です。そんな眼を育んでください。私たちは、社会の皆さんと、偏見・差別なくお互いになんの気兼ねもなく一緒に暮らしたい。晴れやかな気持ちで共に暮らしたいと願っています。」世の中のすべての人権問題に通じる考えを真剣に考える機会になりました。

生徒の活躍

●第26回全九州卓球選手権大会(中学生の部)県大会予選
個人戦　女子シングルス
第３位　２年 岡崎 弥
(R8.2.22　九州大会出場)

●令和７年度曽於市「税を考える週間」作品展
標語の部
曽於市長賞　３年 三島 奏音
公益財団法人　曽於法人会長賞
３年 下川 幸朔
入選　３年 片平 悠誠

●令和７年度「そお市民祭」児童生徒図画工作作品展
入選　３年 上村 瑠依
３年 永吉 結衣
２年 今西 悠輔
２年 大石 恵士
２年 藤岡 夕奈
２年 小松 果歩
１年 ＊＊　＊＊
１年 宮川 愛來
１年 西別府 冬陽
１年 山村 暖和

●第52回鹿児島県吹奏楽ソロコンテスト
金賞　３年 河路 紗那
銀賞　２年 有馬 乙寧

●第35回弥五郎どん中学校女子バレーボール大会
第３位　財部・松山・宇都合同

マイゴールチャレンジMGCに取り組んでみて…

１１月中旬からテスト期間と並行して３週間ほど取り組まれたマイゴールチャレンジ(宅習・英宅・漢字の宿題を義務化せず、自分に必要な勉強を考えて取り組んでいく)。期間が終わって、生徒や保護者対象にアンケートを行いました。結果は、「テスト期間に宿題をせず、自分のやりたい学習がじっくり出来た」生徒と「自分に任されるとやる気が出なかったり、勉強の仕方がわからなかったりして勉強しなった」生徒の二極化が見られました。保護者の方は、「マイゴールチャレンジが自分の子には合っていた」３割、「勉強しなくなった」３割、「以前と変わらない」４割といった結果でした。この結果を受けて、以前よりも量は減らした状態で宅習・英宅・漢字の宿題を義務化として残しつつ、残りの家庭学習は自分でデザインしていくＭＧＣを続けることになりました。与えられないと勉強できない子ではなく、自分の目標に向かって試行錯誤できる子を育てていくために、学校でできること、家庭でできることを模索していかなければなりません。今回のＭＧＣへの試行はそれを考えさせられるものになりました。